

## 平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成26年4月22日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の参加状況

第2学年 国語279人 社会279人 数学279人

理科279人 英語279人

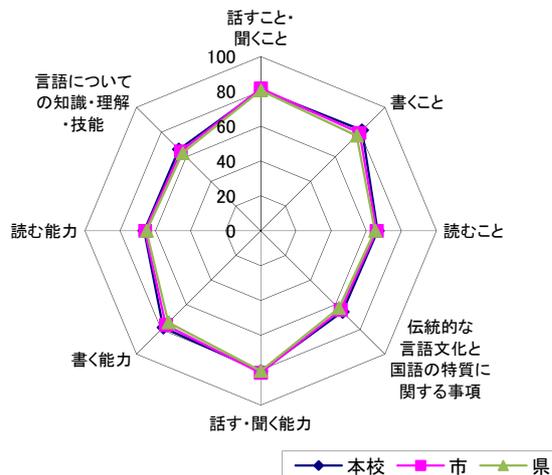
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.6	81.6	80.5
	書くこと	81.4	79.4	77.2
	読むこと	66.4	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.7	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	80.6	81.6	80.5
	書く能力	78.5	76.4	74.3
	読む能力	66.4	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	65.9	64.4	63.0



## ★指導の工夫と改善

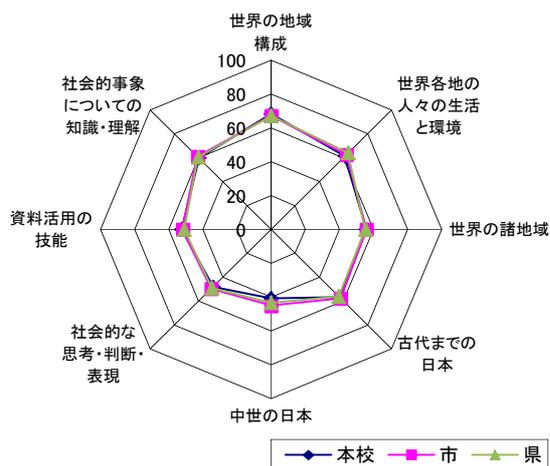
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話すこと・聞くことにおいては概ね良好と考えられる。「話の内容を正確に聞き取る」ことでは県の平均を0.8ポイント上回った。「話し方の構成や工夫」では、0.5ポイント、「質問を正確に聞き取り、適切な発言を考える」では、1.8ポイント県の平均を上回った。</p> <p>●「司会の進め方の工夫」では、3.0ポイント県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・継続的に実施している聞き取りテストや、短学活や集会で実施しているスピーチなどが効果を上げていると考えられる。今後も継続して実施していきたい。</p> <p>・「司会の進め方」については、集会等での経験が不足していると考えられる。学級の短学活の司会や、国語科において小グループを生かした話し合いの司会の経験をさせていくようにしていきたい。</p>
書くこと	<p>○「書くこと」の領域においては4.2ポイント、観点別の「書く能力」においても、4.2ポイントと県の平均正答率を上回り、書くことにおいて本校の2年生は、十分良好であると考えられる。</p> <p>●新聞記事から必要な情報を読み取り、解答を記述する問題の正答率は、県の平均より4.8ポイント上回るが、49.3%と半分以下の正答率であった。</p>	<p>・1年時に短時間で実施してきた「名文視写」の取り組みや、短作文が効果を上げている。今後も継続して実施していきたい。</p> <p>・定期テストに、継続的に作文を出題してきた。採点の観点を出題時に示しているのも、よい作文の書き方を身につけることにつながった。さらに、発達段階に応じた作文のテーマを探っていきたい。また、新聞記事を活用した作文のテーマを発掘していきたい。</p>
読むこと	<p>○「読むこと」の正答率は66.4%で、県の平均を1.4ポイント上回る。説明文、文学作品のいずれの読解も県の平均を上回り、特に説明文では、すべての問題で県の平均正答率を上回った。</p> <p>●新聞記事に適切な写真を選択する問題で、県の平均を5ポイント下回る。思考・判断の問われる問題で、的確な選択をすることができなかったようだ。</p>	<p>・読書の好きな生徒が多く、朝の読書だけでなく進んで読書をする生徒が多い。読解力が身につくよう、本の紹介をはじめとした読書指導をいっそう充実させていきたい。</p> <p>・本校では新聞を教室に配置し、自由に新聞が読める環境を提供している。しかし、読んでいる生徒は少数である。新聞を使った授業を実施するなどして、新聞を読む機会が増えるように働きかけていきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の書きでは、4問中2問で県の平均正答率を上回り、概ね良好である。文法の品詞の理解では、県の平均を16.2ポイント上回る。</p> <p>●漢字の読みでは、4問すべて県の平均正答率を下回る。歴史的仮名遣いの理解では、県の平均を1.1ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の書きは小テストなどの取り組みが効果を上げている。また、文法の高い定着度についても、小テストや問題練習を効果的に実施した成果である。今後も継続して実施していきたい。</p> <p>・漢字の読みや、歴史的仮名遣いについては、授業や家庭学習での音読の不足が課題として考えられる。音読の効果を粘り強く伝え、多くの場面で取り入れるようにしていきたい。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	68.2	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	61.2	62.6	63.9
	世界の諸地域	56.0	55.9	55.3
	古代までの日本	56.8	57.8	56.2
	中世の日本	40.9	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	48.0	49.7	48.9
	資料活用に関する技能	52.5	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	59.7	61.1	60.6



## ★指導の工夫と改善

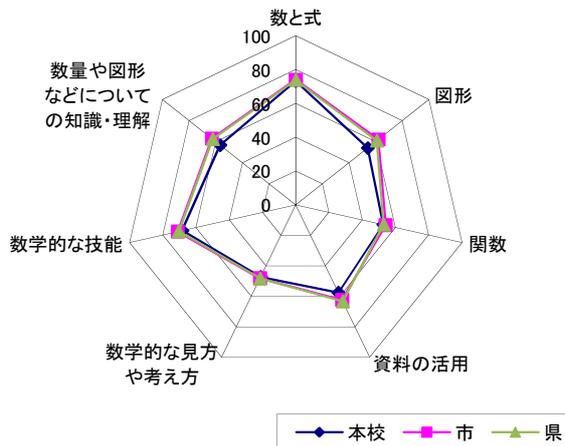
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<p>○県や市の正答率と比べ、1.1ポイント上回っている。特に「世界の海洋の分布」や「世界の主な国々の名称と位置」などの、知識・理解を問う問題に対しては、ともに市や県の正答率を上回った。また、思考・判断力を問う「様々な世界地図を活用して考える」問題に対しても、県や市の正答率を上回った。</p> <p>●しかし「世界の地域区分」の知識・理解を問う問題では1.0ポイント、「緯度と経度をもとに地図を読み取る」技能を問う問題では2.4ポイント、市の正答率を下回っている。</p>	<p>・「世界の地域構成」は、地理的分野を学ぶ上での基礎・基本となる部分である。また、小学校での既習事項を基にして、さらに発展的な内容を学習するところでもある。地球儀や様々な種類の世界地図の読み取りなど、生徒が多くの資料を意欲的に活用して調べようとする態度を養うことができるように、授業の形態や学習方法を工夫するとともに、関連項目を学習する際には、積極的に反復学習をさせることで、知識の定着と資料活用に関する技能の習得を図っていきたいと考える。</p>
世界各地の人々の生活と環境	<p>●県の正答率と比べ2.7ポイント、市の正答率と比べ1.4ポイント下回っている。特に「世界各地の人々の生活と環境を雨温図を用いて判断し、根拠を説明する」思考判断を問う問題では、市の正答率を5.1ポイント下回った。</p> <p>○「世界の大陸の気候帯についてとらえる」問題は、市の正答率を1.4ポイント上回った。また「世界の主な宗教の分布」の知識・理解を問う問題でも、わずかではあるが市の正答率を0.3ポイント上回った。</p>	<p>・この単元は、世界の諸地域の自然環境と多様な文化を学ぶことで、我が国の生活と比較しながら考察する内容である。生徒が、日常生活と大きく異なる自然環境や生活環境を学ぶにあたり、共通点や相違点を具体的に理解できるように視聴覚教材を授業に活用することで、生徒の興味・関心を高めるような授業展開を心がけたいと考える。また今後は、資料活用に関する技能・表現を高めるためにも、図やグラフや統計資料などを基に多面的・多角的な読み取りと表現について、時間をかけて指導にあたりたいと思う。</p>
世界の諸地域	<p>○県の正答率と比べ0.7ポイント、市の正答率と比べ0.1ポイント上回っている。特に「アジア州気候の特色」への知識・理解や「石油生産量に関するグラフを読み取る」問題や「アジア州の産業について資料を基に説明する」問題に関しては、ともに県や市の正答率を上回っている。</p> <p>●しかし、「季節風がアジア州の気候にもたらす影響」についての知識・理解を問う問題では、市の正答率を10.9ポイントも大きく下回っている。</p>	<p>・世界の諸地域を様々な面から大観させ、地域ごとの特色を学ぶ単元である。特に「アジア州」は日本と位置関係も近く、歴史的なつながりも深く、共通点も多いことから、生徒にとっては身近に感じられる学習内容でもある。各地域ごとの特色や共通点・相違点を、教科書や資料集だけでなく、新聞やテレビのニュースやインターネットなども活用することで、生徒の興味・関心を継続できるようにしたり、小集団学習を通して互いの意見交換をする場を多く設定し理解や考察を深めさせたりと、学習方法や学習形態の工夫をしていきたいと考える。</p>
古代までの日本	<p>●県の正答率と比べれば0.6ポイント上回っているが、市の正答率と比べると1.0ポイント下回っている。特に、「古墳の広がり」について図を基に考える問題では、市の正答率を10.1ポイント大きく下回った。</p> <p>○「年代の表わし方」について知識・理解を問う問題では4.6ポイント、「藤原道長」について知識・理解を問う問題では5.8ポイント、「国風文化」に関して資料を読み取る問題では4.0ポイント市の正答率を上回っている。</p>	<p>・小学校での既習事項を基に、「古代までの日本」について、時代の全体像を大きくとらえて学習する単元である。石器や土器や遺跡など、生徒たちの興味・関心を高めることができる資料も多く、授業の中でも積極的に活用していききたいと思う。各時代の特色やその時代に活躍した人物の業績などの知識・理解は優れている生徒が多かった。今後は資料から時代背景を考えさせたり、世界と日本とのつながりや外交関係の内容にも、十分な時間をかけて理解を促せるよう工夫したいと思う。</p>
中世の日本	<p>●県の正答率と比べ2.6ポイント、市の正答率と比べ4.2ポイント下回っている。特に「鎌倉時代に成立した仏教の宗派」についての知識・理解を問う問題では市の正答率を6.3ポイント下回っている。また「鎌倉幕府のしくみの変化」や「東アジアとの関わり」や「御成敗式目」に関する問題でも、市の正答率を下回っている。</p> <p>○「鎌倉幕府の衰退」について資料を基に読み取る問題では、1.2ポイント市の正答率を上回っている。</p>	<p>・武士が台頭した中世は、平清盛や源頼朝など著名な歴史上の人物も多く、また足利尊氏など栃木県にかかわりの深い人物の登場する時代でもあり、生徒の関心が高いところでもある。そのような関心・意欲を継続させ、主体的に学習に取り組む態度を養っていききたいと思う。また、そのころの生活や文化・外国との関わりについては、表面的な知識の定着にとどまることが無いように配慮し、今後は、歴史事象や資料を読み取るときに、当時の日本の状況を様々な視点から考えたり、捉える力をつけていくような授業の展開を工夫したい。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	73.2	74.1	73.8
	図形	54.0	62.0	60.9
	関数	52.6	54.1	52.9
	資料の活用	57.6	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	47.4	48.2	48.3
	数学的な技能	68.4	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	56.7	62.9	62.3



## ★指導の工夫と改善

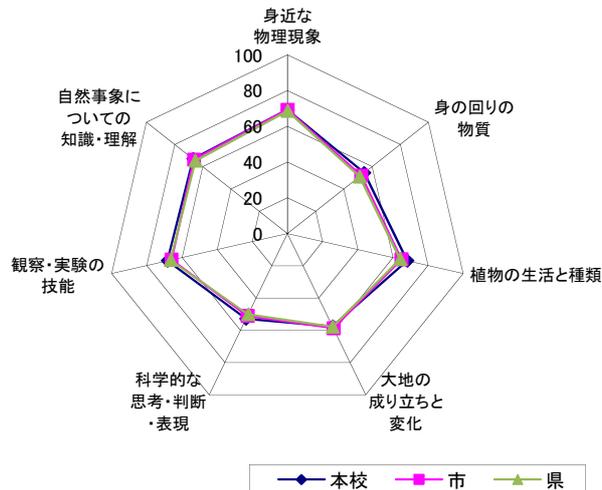
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>●市の平均と比べると、0.9ポイント低く、県の平均と比べると0.6ポイント低い。小学校でマスターしておくべき、分数・小数の四則計算が身につけていない生徒もいて、計算自体に苦手意識がある生徒も多い。</p> <p>○1次方程式の比例式を解く問題は、市の平均と比べると3.1ポイント高く、県の平均と比べると5.2ポイント高い。本校の生徒は、比例式の計算力が高い傾向にある。</p>	<p>・授業の最初に、課題テストを行うなど、計算に数多く触れさせることにより、計算力を身に付けさせていきたい。ときには、分数・小数の四則計算なども授業で取り上げ、計算力を高めていきたい。</p> <p>・不注意な計算ミスもみられるので、たくさん問題を解く機会を設けるとともに、制限時間を設定し、その時間中で計算問題を解くなどの経験も積み重ねさせていきたい。</p>
図形	<p>●市の平均と比べると、8.0ポイント低く、県の平均と比べると、6.9ポイント低い。「球の体積を求める式を選ぶ」問題は、市の平均と比べると、20.0ポイント低く、県の平均と比べると、18.3ポイント低い。また、「円柱の展開図から表面積を求める式を選ぶ」問題は、市の平均と比べると、8.3ポイント低く、県の平均と比べると、5.0ポイント低い。</p>	<p>・コンパスや定規を使用して図形をかくことが苦手な生徒もみられるので、図形をかく機会を数多く持たせ、図形に慣れさせることを心がけたい。</p> <p>・授業の最初に、課題テストを行うなど、図形の問題に数多く触れさせることにより、図形の問題に慣れさせていきたい。</p> <p>・空間図形の表面積や体積を求める公式を使って解く問題も、プリントなどで数多く解かせることによって、力をつけさせたい。</p>
関数	<p>●市の平均と比べると、1.5ポイント低く、県の平均と比べると、0.3ポイント低い。</p> <p>○「比例の関係について説明した正しい文章を選択する」問題は、市の平均と比べると、8.8ポイント高く、県の平均と比べると、7.3ポイント高い。また、「問題文中の関係と同じ比例の関係になるものを選択する」問題は、県の平均と比べると、6.8ポイント高い。</p>	<p>・点の座標を読み取ったり、点の座標をかいたりする問題を数多く解く機会を設け、グラフをかくために必要な基本的な力を身に付けさせたい。その上で実際に、式から比例のグラフ・反比例のグラフをかく問題も数多く解かせ、グラフに対する苦手意識を取り除いていきたい。その他にも、簡単な関数の問題を解くことから始め、「ともなって変わる2つの量」の関係を理解させ、表・式・グラフの関連性も身に付けさせたい。</p>
資料の活用	<p>●市の平均と比べると、4.9ポイント低く、県の平均と比べると、5.8ポイント低い。「度数分布表とヒストグラムとの関係を理解する」問題は、市の平均と比べると、4.6ポイント低く、県の平均と比べると、4.5ポイント低い。「度数分布表から階級の相対度数を求める」問題は、市の平均と比べると、11.2ポイント低く、県の平均と比べると、13.7ポイント低い。</p>	<p>・単発の学習内容であるので、覚えておくべき専門用語や公式をなかなか覚えられていない生徒が多いのが現状である。課題学習の時間に、資料の整理についての課題を設定し、生徒が興味を持ちそうな内容を扱い、それを使って資料を整理し、度数分布表を作成したり、そこからヒストグラムをかいて、資料の平均値や中央値や最頻値を求めることで、実力をつけさせていきたい。また、そのとき資料の読み取り方も教え、身に付けさせたい。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	69.2	69.2	68.6
	身の回りの物質	54.4	52.2	51.1
	植物の生活と種類	68.1	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	57.7	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	52.9	51.1	50.1
	観察・実験の技能	68.3	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	66.9	66.5	65.4



## ★指導の工夫と改善

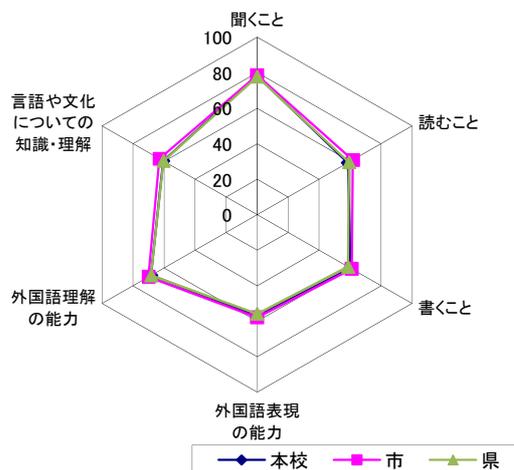
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>市全体の平均とは同ポイント、県全体の平均と比べ0.5ポイント上回っている。</p> <p>○「力と圧力」では市で1.8ポイント、県で3.2ポイント上回っている。力とばねの伸びの関係や力を受ける面積と圧力との関係がしっかり身についている。</p> <p>●「光と音」では市で1.1ポイント、県で1.0ポイント下回っている。特に凸レンズによってできる実像の様子を推測する内容の定着が不十分であると思われる。</p>	<p>・「身近な物理現象」については、日常生活で経験していることもあり、比較的興味・関心は高い。しかし、その中でも定着が不十分であると思われるのは、光や音など、そのままでは目に見えない事象である。これらはイメージを膨らませる必要があることから、様々な例や実験を実施し、学習に取り組ませたいと思う。</p>
身の回りの物質	<p>市全体の平均と比べ、2.2ポイント、県全体の平均と比べ3.4ポイント上回っている。</p> <p>○「水溶液」「物質のすがた」「状態変化」では、市でそれぞれ3.8ポイント、1.7ポイント、1.1ポイント、県でそれぞれ4.7ポイント、4.0ポイント、1.6ポイント上回っている。特に溶解度に対する理解の定着がしっかりしている。</p> <p>●「状態変化」では、加熱する物質の量と温度変化を推測する学習内容が、市で1.8ポイント、県で2.2ポイント下回っている。温度変化は物質の量が少ないと大きくなることの定着が不十分であると思われる。</p>	<p>・「身の回りの物質」については、概ね学習内容の定着が図られていると考える。これらの学習内容は、第2学年で学習する、原子や分子、化学変化の基礎となるものであるため、さらに確実な定着をはかれるよう、練習問題などを数多く取り混ぜるようにしたい。</p>
植物の生活と種類	<p>市全体の平均と比べ3.3ポイント、県全体の平均と比べ4.0ポイント上回っている。</p> <p>○「植物のからだのつくりとはたらき」では、市で4.1ポイント、県で6.6ポイント上回っている。また、「植物のなかま」では、市で4.3ポイント、県で4.5ポイント上回っている。植物の花のつくりや分類についての学習内容がしっかり定着していることがわかる。</p> <p>●「生物の観察」では、市が0.7ポイント上回っているのに対し、県が1.6ポイント下回っている。とくに顕微鏡の正しい操作手順については定着が不十分であると思われる。</p>	<p>・「植物の生活と種類」については、比較的学習内容が定着していると思われる。しかし、顕微鏡の正しい使い方など、今後も観察で必要とされる学習内容については、繰り返し実践で取り上げるなど、確実に身に付けさせるようにしたい。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>市全体の平均と比べ1.0ポイント、県全体の平均と比べ0.1ポイント下回っている。</p> <p>○「火山と地震」では、複数地点の地震計の記録から、ある地点での初期微動継続時間を推測する学習内容が、市で9.2ポイント、県で9.5ポイント上回っている。グラフから読み取る力が身についていると思われる。</p> <p>●「火山と地震」では、市で0.7ポイント下回っている。また、「地層の重なりと過去のようす」では、市で0.7ポイント、県で0.9ポイント下回っている。堆積岩の特長や火山岩のつくり、マグマの粘性と火山の形との関係についての学習内容の定着が不十分であると思われる。</p>	<p>・日本の特色ともいえる火山や、近年、大規模に発生している地震についての学習内容であるが、教室での再現が難しい学習内容でもある。そのため、視聴覚教材などを効果的に使い、生徒のイメージを作り上げながら、しっかりとした学力定着につながるようにしたい。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	78.3	78.7	77.8
	読むこと	58.5	61.7	59.2
	書くこと	60.2	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	57.0	57.9	55.8
	外国語理解の能力	68.4	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	60.6	63.0	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>市全体の平均からは0.4ポイント下回り、県全体の平均からは0.5ポイント上回っている。</p> <p>○対話文を聞いて、動作や時刻を聞き取ることや、曜日を読み取ることはできている。</p> <p>○まとまりのある英文を聞いて、待ち合わせ場所を聞き取ることや、待ち合わせ時刻を聞き取ることができる。</p> <p>●対話文を聞いて、英語の発問に対して、適切な表現の英語を使って答えることを少し苦手としているようである。</p>	<p>・絵を見ながら答えることや、まとまりのある英文を聞いて概要をとらえることは得意のようであるので、さらに伸ばしていきたい。</p> <p>しかし、聞き取ることができても、答え方に関する表現の語彙力が不足していたり、文法的な知識が不足しているために正確な受け答え方ができていない。</p> <p>そのため、英語を聞き流すだけではなく、授業での「教師と生徒のやりとり」、「生徒と生徒のやりとり」の際に生徒の受け答えに正確性を求め、必要に応じて教師が正しいモデルをその場で示したり、生徒に言い直させて答えさせる機会を増やしたい。</p>
読むこと	<p>市全体の平均からは3.2ポイント下回り、県全体の平均からは0.7ポイント下回っている。</p> <p>○対話文の中で、When、be動詞の疑問文や疑問詞を用いた現在進行形の疑問文は理解しているといえる。</p> <p>○まとまりのある英文を読んで、話の内容をつかんだりすることや、問題に問われていることについて、正確に答えとなる部分を見つけ出すことができている。</p> <p>●命令文、一般動詞の人称の理解が不十分であるために、対話文で使用されている表現の受け答えにおいて正確さを欠いているようである。</p> <p>●対話文を読んで、空欄に入る適切な英文を選ぶことが県や市の平均に対して低かった。</p>	<p>・まとまりのある英文を読んで、内容を大まかに理解することや、問題で問われていることに対しては県や市の平均と同等のようなので、今後は力を伸ばすために、たくさんの語に触れさせ、定着をさせることにより、読解のスピードを上げることや正確性を高めていきたい。</p> <p>一方で、一般動詞の人称についてや、命令文の復習を授業の帯学習など利用してしっかりと確認させたい。</p> <p>対話文を読んで、空欄に入る適切な英文を選ぶという問題に不慣れな部分があったようなので、意図的に同様の出題をこれから増やしたい。</p>
書くこと	<p>市全体の平均からは0.8ポイント下回り、県全体の平均からは1.5ポイント上回っている。</p> <p>○語順の理解においては全般的に市や県の平均と比べてよくできていた。</p> <p>○テーマに基づく英作文では、自分が相手に伝えたいと考えていることをよく表すことができていた。</p> <p>●一般動詞の用法の理解に不足が見られるため、語順における正確さに欠いていた。</p> <p>●場面や状況に応じた英作文では、必要とする表現を覚えていないために、スペルミスや適切な表現が書けていなかった。</p>	<p>・授業において、自己表現を伴うようなスピーキングの機会を増やしていることが、書くことにおいても有用な役割を果たしていることがわかったので、今後も継続していきたい。</p> <p>しかし、一般動詞の用法の理解の不足や、依頼表現など意図して覚えなければならない項目もあるため、指導する際には定着するまで繰り返し学習を促す必要がある。また、語彙力の不足も考えられるために、そのときに短期的に記憶させるだけではなく、時間が空いてからも復習の機会を意図的に作りたい。</p>

## 宇都宮市立陽東中学校第2学年生徒質問紙調査

### ★傾向

○良質なもの ●課題が見られるもの

#### 〈学習について〉

○「計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は64.8%で、県の肯定割合よりも7.3ポイント高い。

●「家で学校の宿題をしている」の肯定割合は、87.8%で、県の肯定割合よりも4.1ポイント低い。宿題をきちんとやる習慣のない生徒が1割以上である。

●「学校の宿題はやりたくなる内容だ」の質問に対し、肯定割合は35.8%で、県との比較でも3.8ポイント低い。

○「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」生徒は63.8%で、県と比較して9.3ポイントも多かった。家庭学習用のノートを全生徒に配布し、提出させる取組が、自主的な学習方法を身につけさせていると考えられる。

○「テスト後にやり直しをする。」という生徒は、64.8%で、県の肯定割合よりも5.8ポイント高く、テストの成績を気にして、努力する様子が垣間見える。

○「1か月に1冊も本を読まない」2年生の割合は6.5%で、県との比較で4ポイント少ない。2年生には読書好きの生徒が多く、朝の読書の時間以外にも本を読む姿をよく見かける。

本校の2年生は、読書が好きで、テストに関心が強く、自分の成績向上を望んでいる様子がわかる。また、自分から学習方法を工夫して取り組んでいる。学力を向上させたいという、生徒の願いを叶えられるよう、学習のしやすい環境をととのえていくことが重要である。

宿題については、やる気を出せない生徒も多いようだ。出し方や宿題に出す内容を、工夫していく必要がある。

●「難しい問題に出会うとやる気が出る」の肯定割合は30.4%で、県との比較で7.2ポイント低い。

●○「できるだけ自分ひとりの力で物事を解決しようとしている」の肯定割合は71.7%で、県との比較では5.1ポイント低い。難しい問題も自分で解決しようとせず、友達や先生を頼ってしまう傾向があるようだ。

○「学習に自分から進んで取り組んでいる」肯定割合は70.6%で、県の割合よりも4.7ポイント高い。

●「授業を集中して受けている」肯定割合は、86.7%で、県と比較して1.6ポイント低かった。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」の肯定割合は38.7%で、県と比較して2.4ポイント低い。

○「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」生徒の割合は67.4%で、県の割合よりも3ポイント高い。

学習に自ら取り組みもうとする姿勢を持つが、難しい課題に対する粘り強さには課題がある。その分、わからないことがあって先生に質問することには抵抗を感じないようだ。また、失敗や間違いを恐れて、発表ができなくなる傾向があるようだ。今後は、グループ活動を生かすなど、難しい課題にも根気強く取り組ませる工夫が必要である。

#### 〈生活について〉

●「学校のきまりやマナーを守っている」の肯定割合は89.2%で、県の平均よりも1ポイント低かった。

○「毎朝自分で起きている」の肯定割合は71.7%で、県の平均よりも1.3ポイント高い。

●「毎日朝食を食べる」の肯定割合は93.2%で、県の平均よりも0.3ポイント低い。

○「食事のとき、好ききらいをしないで食べている」の肯定割合は、85.3%で、県の平均よりも10.3ポイント高い。

●「近所の人に会ったときあいさつをしている」の肯定割合は、85.7%で、県の平均よりも4.3ポイント低い。

●「ふだん(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間、ゲームをしますか」の質問で、1時間以上ゲームをしている割合は、62.3%で、県との比較では7.1ポイント高い。

●携帯電話、スマートフォンの所持率は、53.8%であり、県と比較して10.5ポイント高い。また、13.3%がフィルタリングをしていないと回答していて、県との比較で2.1ポイント高い。

●○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の質問に対する肯定割合は、70.6%で、県の平均とは-0.1ポイントの差である。

○「ボランティア活動に参加したことがある」の肯定割合は、62.4%で、県の平均よりも8.1ポイント高い。

きまりやマナーについては、約9割の2年生が守っているが、規範意識についてはさらに向上させるための取組を続けていきたい。

あいさつについては、あいさつ運動などを強化し、さらに高めていきたい。

本校生のゲームをする時間は長いことがわかる。ゲームのさせ方については家庭との連携を強化し、長時間にならないようにさせたい。また、携帯電話やスマートフォンの使用についても、家庭との連携が欠かせない。同時に情報モラルを身につけさせるための実践も強化していく。

ボランティア活動の参加割合は高い方だが、その意義などについて話す機会を増やし、より多くの生徒に参加を促していきたい。

〈自分について〉

●「物事をやり遂げてうれしかったことがある」の肯定割合は、91.7%で、県との比較で3.3ポイント低い。

●「自分には良いところがある」の肯定割合は、68.8%で、県との比較で5ポイント低い。

○「時間を上手に使うことを心がけている」の肯定割合は、76.7%で、県との比較で3.7ポイント高い。

●「人と話すことは楽しい」の肯定割合は、90.4%で、県との比較で2.2ポイント低い。

●「だれに対しても思いやりの心を持っている」の肯定割合は80.3%で、県との比較で6.1ポイント低い。

●「時間や約束を守ることは大切だ」の肯定割合は、92.5%で、県との比較で5.1ポイント低い。

●「将来の夢や目標がある」の肯定割合は、70.2%で、県との比較で7.4ポイント低い。

物事をやり遂げる体験を増やし、達成感を味わわせたい。自分の良いところに気づいていない生徒が多く、また、将来について目標をもてずにいることから、社会体験学習を含めた進路指導の充実を図り、自分のよさに気づかせ、将来への見通しを持たせていくようにしたい。

体験的な学習の機会を増やし、道徳教育を充実させ、思いやりの心を育てたい。